

なかまとそろえる入場行進で育む力 脳科学の話から

最近「スマホはどこまで脳を壊すのか」という本を手にする機会がありました。以前、教育長がスマホなど SNS 利用で脳がダメージを受けるという話を講演で聞かれたそうで、どんなダメ



ージを受けるのか、修復することはできないのかなど科学的な根拠を調べてみようとする中で出会った本でした。

昨日の職員会議で、本に書いてあった人との「共感」について先生方に紹介しました。



誰かの話に共感したり、相手の気持ちを推し量ったりする時に、脳の前頭前野の内側、側頭葉の先端、側頭葉と頭頂葉の間の3つの領域が非常によく働いている。脳の活動はいつも上下していて、会話している人同士の脳のリズムがそろった時、コミュニケーションにおける共感や共鳴のような現象が起こっている。その時、人は「つながっている」と感じるのではないか。その現象を『脳が



同期している』というそうです。

『脳の同期』は、周りの人との思いやりや協調性に関係していて、駅など混雑している場所で人にぶつからないように前のひとの歩く速さに合わせて歩く時の脳も同期していることが実験で確認されています。

運動会の入場行進などの集団行動については、体育科の学習指導要領で秩序正しく、能率的・安全に行動するために必要な力を身につけるよう示されていますが、子どもたちの脳にとっても、集団で調子を合わせて歩くことが周りの人への思いやりや協調性を獲得する体験になっていることを紹介しました。

9月17日の運動会では、なかまと調子を合わせて元気よく行進する子どもたちの姿が見られるように入場行進の練習の際にこうした話もしていきたいなと考えています。